

さとうきび増産に向けた取組の実績及び評価

沖縄県伊江島

増産プロジェクトにおける令和6年産生産計画の達成状況及び今後の取組状況													
生産計画の 達成状況等	1 令和6年産の生産実績												
		収穫面積 (ha)				単収 (kg/10a)				生産量 (t)			
		夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計
	H29年産実績	59	1	18	78	7,200	2,058	3,054	6,180	4,234	14	559	4,806
	H30年産実績	54	-	14	68	7,390	-	4,400	6,781	4,007	-	610	4,617
	R元年産実績	48	-	24	72	8,239	-	4,882	7,137	3,982	-	1,154	5,136
	R2年産実績	51	-	29	81	8,148	-	4,808	6,939	4,194	-	1,405	5,599
	R3年産実績	51	-	30	80	8,148	-	5,087	7,017	4,135	-	1,513	5,647
	R4年度実績	67	-	23	90	8,800	-	6,196	8,142	5,875	-	1,398	7,273
	R5年増産実績	62	-	26	88	7,804	-	4,627	6,863	4,816	-	1,201	6,017
	R6年増産計画	65	-	25	90	7,500	-	5,000	6,806	4,875	-	1,250	6,125
	R6年増産実績	54	-	35	89	8,429	-	-	7,523	4,550	-	2,145	6,695
	(対計画比%)	(83.0)	(0.0)	(140.0)	(98.9)	(112.4)	(0.0)	(0.0)	(110.5)	(93.3)	(0.0)	(171.6)	(109.3)
(対前年比%)	(87.5)	(0.0)	(135.1)	(101.6)	(108.0)	(0.0)	(0.0)	(109.6)	(94.5)	(0.0)	(178.6)	(111.3)	
2 その他指標の動向 令和5年産→令和6年産													
・株出栽培の割合		29.6%	→	39.3%	・さとうきび作農家戸数		151戸	→	137戸				
・平均糖度		16.0度	→	14.7度									

増産目標に対する位置づけ	<p>令和6年産 生産計画及び実績については、以下のとおりであった</p> <table border="1" data-bbox="504 303 1164 414"> <thead> <tr> <th></th> <th>収穫面積</th> <th>単収</th> <th>生産量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(計画)</td> <td>90ha</td> <td>6,806kg/10a</td> <td>6,125t</td> </tr> <tr> <td>(実績)</td> <td>89ha</td> <td>7,523kg/10a</td> <td>6,695t</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和6年度生産実績は、収穫面積88.9ha(計画比98.77%)、単収7,523kg/10a(計画比110.6%)、生産量6,694t(計画比109.2%)であった。今期は台風等の自然災害による影響はなく、毎年継続的に実施している関係機関による補助を活用した薬剤の共同購入及び一斉防除の実施、生産農家の適正な肥培管理などを実施したところ、単収及び生産量において計画値を上回る結果となった。 今後も引き続き薬剤の共同購入や、一斉防除の実施、農業用水を活用した肥培管理の徹底、伊江村堆肥センターの堆肥利用を促進し、単収向上を推進していく。</p>		収穫面積	単収	生産量	(計画)	90ha	6,806kg/10a	6,125t	(実績)	89ha	7,523kg/10a	6,695t
	収穫面積	単収	生産量										
(計画)	90ha	6,806kg/10a	6,125t										
(実績)	89ha	7,523kg/10a	6,695t										
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効率的かつ安定的な生産の維持に向けた各管理作業の機械化や、植付・収穫等の受託体制の検討が必要 ・ かん水の意識が低いため、かん水方法の指導、適期かん水による増収効果の周知を引き続き行う必要がある ・ 収穫体系や土壌、農家経営に適した品種(農林22号、KY99-176、Ni29等)の選定及び普及 												
令和6年産における取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関(JA等)と協議し、農業生産法人等の受託組織団体結成を図るとともに収穫機械のオペレーター確保及び育成に努める ・ かん水方法の指導、適期かん水の指導を行う ・ 次期有望品種として、Ni29の村内での試験栽培を実施 												

(1)経営基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																											
<p>①効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫機械(3機)を活用した結果、農家の労働時間の短縮等を図ることができた ・ 薬剤配布時にハーベスター活用に伴う畝幅作りや肥培管理等を周知し、より良い生育となるよう努めた ・ 伊江村農業従事者等宿泊施設(従業員宿舎)を活用することで、3班2交代制へ移行し、安定した運営を図ることができた <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="465 568 1424 762"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>農業法人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さとうきびは、葉たばこや野菜等との複合経営で生産を行っているため、一戸当たりの生産面積が少ない ・ 新たな認定農業者及び受託組織等の育成 ・ 収穫・植付以外の受託体制が無い ・ 働き方改革により3班2交代制で運用を行っているが、リーダーの育成・確保に苦慮している 		H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	認定農業者	1	1	-	1	3	3	3	3	農業法人	-	-	-	-	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輪作により農家の経営安定及び地力の増進を図る ・ 中核的な担い手である認定農業者等の育成並びに農地集積を図る ・ 収穫以外の機械化、機械導入、受託組織の育成を実施する ・ 継続した作業リーダーの確保の観点から村内在住者から人員の選定・育成を行い、安定した製糖期の運営を図る
	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6																					
認定農業者	1	1	-	1	3	3	3	3																					
農業法人	-	-	-	-	-	-	-	-																					

②農業共済制度への加入促進	【実施した取組】								<p>・共済制度の周知並びに理解を得るため、生産組合を対象に説明会を開催し加入促進に努める</p> <p>・さとうきび増産プロジェクト会議や生産組合の活動等に参加し、構成員であるJAや生産組合等と連携し、加入推進を図る</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤配布や圃場確認時など、必要に応じて生産農家へ制度の説明を行い、加入促進を図った ・ さとうきび生産組合総会にて加入促進のため説明会を実施した ・ 村において収入保険の掛け金の一部補助を実施した 									
	【目標の達成状況】									
		H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)		R6 (R7年産)
	加入戸数 (戸)	73	69	65	63	62	57	54		52
	戸数引受率 (%)	59.8	55.2	47.4	47.7	47.3	43.2	41.0		37.9
	引受面積 (ha)	39	36	42	41	43	41	31		32
面積引受率 (%)	57.5	51.1	53.3	51.7	57.5	51.6	39.0	40.4		
共済金額 (千円)	39,053	37,485	46,749	47,206	35,318	-	-	-		
注) R4、R5年産の数値については概算値										
【課題】										
<ul style="list-style-type: none"> ・ 畑作物共済加入率が37.9%と低いため継続して畑作物共済加入促進が必要 										

(2)生産基盤の強化

項目	取組実績及び課題								今後の取組方向	
①気象災害に強い生産基盤の整備	【実施した取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農地防風林等の整備を実施 ・ かんがい設備の整備事業を実施 								<ul style="list-style-type: none"> ・かんがい整備事業を推進するとともに、既設のほ場では設備が活用されるよう周知を図る ・農地防風林や保安林の整備を行う 	
	【目標の達成状況】 (単位:%)									
		H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 見込		R6 見込
	ほ場整備率	20.6	20.6	20.6	20.6	20.6	21.5	21.5		21.5
	水源整備率	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	97.7	100.0		100.0
畑地かんがい整備率	58.6	59.6	64.0	70.6	72.2	73.9	65.0	65.0		
【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 台風等の被害を最小限にとどめるための農地防風林、保安林の整備を行うため関係機関と連携する必要がある ・ 干ばつの被害に対応するため、水源及び畑地かんがい設備の活用 										

<p>②機械化一貫体系の確立</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 導入した小型ハーベスター(3機)を活用し、機械収穫率を85%とした 収穫以外の機械化を図るため機械導入方針を策定した 製糖工場が機械収穫作業を受託、植付作業を植付班へ斡旋した <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="465 421 1424 855"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脱葉機 稼働台数</td> <td>18</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>脱葉機 処理面積</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>脱葉機 処理率(面積)</td> <td>14.8</td> <td>12.9</td> <td>11.7</td> <td>5.0</td> <td>3.8</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 稼働台数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫面積</td> <td>20</td> <td>26</td> <td>39</td> <td>53</td> <td>55</td> <td>68</td> <td>68</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫率(面積)</td> <td>25.7</td> <td>38.0</td> <td>54.7</td> <td>65.5</td> <td>68.8</td> <td>75.7</td> <td>77.4</td> <td>85.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関(JA等)と協議し、農業生産法人等の受託組織団体結成を図るとともにオペレーターの確保及び育成に努める 機械作業を担うオペレーターの高齢化が顕著であり、安定的な運用を行うため早期のオペレーター確保及び育成が必要 		H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	脱葉機 稼働台数	18	12	11	6	4	0	0	0	脱葉機 処理面積	12	9	8	4	3	0	0	0	脱葉機 処理率(面積)	14.8	12.9	11.7	5.0	3.8	0.0	0.0	0.0		H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	ハーベスタ 稼働台数	1	2	3	4	3	3	3	3	ハーベスタ 収穫面積	20	26	39	53	55	68	68	76	ハーベスタ 収穫率(面積)	25.7	38.0	54.7	65.5	68.8	75.7	77.4	85.0	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関(JA等)と協議し、農業生産法人等の受託組織団体結成を図るとともにオペレーターの確保及び育成に努める ビレットプランターや株出し管理作業機等の導入に向けた検討の実施 オペレーター研修会(県主催等)に参加し、オペレーターの技能や適正な取り扱い方法を習得する
	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6																																																																		
脱葉機 稼働台数	18	12	11	6	4	0	0	0																																																																		
脱葉機 処理面積	12	9	8	4	3	0	0	0																																																																		
脱葉機 処理率(面積)	14.8	12.9	11.7	5.0	3.8	0.0	0.0	0.0																																																																		
	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6																																																																		
ハーベスタ 稼働台数	1	2	3	4	3	3	3	3																																																																		
ハーベスタ 収穫面積	20	26	39	53	55	68	68	76																																																																		
ハーベスタ 収穫率(面積)	25.7	38.0	54.7	65.5	68.8	75.7	77.4	85.0																																																																		
<p>③地力の増進</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊江村黒糖工場から出るバガス等を活用することで有機物の畑地還元に努めた 葉たばこ、かんしょ、島らっきょう等との輪作体系の実践を推進した 村堆肥センターの堆肥を活用した地力の増進を図るため、堆肥購入の補助を実施した <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産農家に周知し、土づくりに関する知識の向上に努める 緑肥作物栽培による土づくりの普及・促進 土壌分析装置等を活用し、土壌の分析を行い土づくりの現状把握及び普及・促進を図る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 堆肥投入や緑肥作物による勉強会等を実施し、土づくり及び地力の増進を図る 土壌分析装置等の活用について、農家へ周知し分析を行い、土づくりの普及・促進、必要施肥量の把握を行う 																																																																								

(3)技術対策

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																						
①病害虫対策	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> JA、役場で薬剤(オンコルOK・野ソ剤)の購入費用の補助を行い、生産者が共同購入し、病害虫一斉防除を実施した 適期の防除作業について巡回指導を実施した <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 梅雨明け以降の干ばつ時のバッタによる食害が顕著で対策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 適期の病害虫防除を啓発・推進し、補助事業等を活用した支援を検討する 耐病性品種の導入について継続的に検討する 																																																						
②優良品種の選択・普及	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 種苗管理センターからの無病健全な優良種苗の導入、原苗ほ設置による優良品種の普及に努めた 優良品種の普及について周知を行い、生産農家へ配布を行った 品種の展示や品種特性の資料配布を行い、適正な品種の選択を図った <p>【目標の達成状況】 (単位:%)</p> <table border="1" data-bbox="465 826 1424 1102"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29 (実績)</th> <th>H30 (実績)</th> <th>R元 (実績)</th> <th>R2 (実績)</th> <th>R3 (実績)</th> <th>R4 (実績)</th> <th>R5 (実績)</th> <th>R6 (実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農林9号</td> <td>6.4</td> <td>4.4</td> <td>-</td> <td>2.0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>農林8号</td> <td>3.8</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>農林15号</td> <td>3.8</td> <td>1.5</td> <td>2.8</td> <td>3.9</td> <td>2.5</td> <td>0.3</td> <td>0.3</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>農林22号</td> <td>1.3</td> <td>1.5</td> <td>15.3</td> <td>25.5</td> <td>35.0</td> <td>53.4</td> <td>54.0</td> <td>58.0</td> </tr> <tr> <td>農林27号</td> <td>70.5</td> <td>77.9</td> <td>68.1</td> <td>56.9</td> <td>46.3</td> <td>25.0</td> <td>25.3</td> <td>28.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の主力品種の優良種苗生産 収穫体系や土壌、農家経営に適した品種(農林22号、KY99-176等)の選定及び普及 品種構成の偏り 		H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 (実績)	農林9号	6.4	4.4	-	2.0	-	-	-	-	農林8号	3.8	-	-	-	-	-	-	-	農林15号	3.8	1.5	2.8	3.9	2.5	0.3	0.3	-	農林22号	1.3	1.5	15.3	25.5	35.0	53.4	54.0	58.0	農林27号	70.5	77.9	68.1	56.9	46.3	25.0	25.3	28.4	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関による普及を推進する品種の優良種苗の供給を推進 機械収穫等に適した品種の選定 次期有望品種として、Ni29の村内での試験栽培を実施
	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 (実績)																																																
農林9号	6.4	4.4	-	2.0	-	-	-	-																																																
農林8号	3.8	-	-	-	-	-	-	-																																																
農林15号	3.8	1.5	2.8	3.9	2.5	0.3	0.3	-																																																
農林22号	1.3	1.5	15.3	25.5	35.0	53.4	54.0	58.0																																																
農林27号	70.5	77.9	68.1	56.9	46.3	25.0	25.3	28.4																																																

<p>③栽培技術の普及等</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産性及び品質向上に向けた適期肥培管理の指導を実施した ・ 干ばつ時のかん水の実施について推進した ・ 優良種苗を活用した種苗更新について講習を実施した <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産者への適期肥培管理(株出管理作業等)の指導を引き続き行う必要がある ・ かん水の意識が低いため、かん水方法の指導、適期かん水による増収効果の周知を引き続き行う必要がある ・ 定期的な種苗更新が不十分である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 株出栽培における適期肥培管理の講習を実施する ・ かん水方法の指導、適期かん水の指導を行う ・ 優良種苗を活用した種苗更新の推進を図る
------------------	---	---